

令和5年度 自己評価

社会福祉法人わたげのほし
花園こども園

1. 園の教育・保育目標

生き生きと心豊かに遊び、安心して穏やかに過ごすことで、生きる力に溢れた、健康でたくましく、賢い子どもの心身を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

○「子ども主体」の遊び・学びの環境作りや発想を豊かにするための関わり、工夫を行っていく。

○充実した教育・保育活動を日々実践していくために、職員の働き方(勤務時間内での作業時間の確保など)の見直しを図っていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
教育・保育活動について	<p>・今年度の年長児は、何事にも興味関心を持ち、好奇心旺盛で意欲的に楽しんで取り組む子が多かったことで、活動の盛り上がりや良い意味での競争意識が育ち、互いに成長し合う様子や主体的に遊びを展開する姿が見られた。その様子が年下メンバーにも良い影響をもたらし、遊びの拡がりや憧れをもって模倣し取り組む姿があった。</p> <p>・年少児が9月に縦割りクラスに編入した際には、それまで様々な機会を設け交流し親しみを十分持っていたこともあり、スムーズに溶け込むことができ、リーダーとなる年長児にも過度な負担にならないよう配慮したこともあり、喜んでお世話ができ、優しく思いやる心の成長が感じられた。</p> <p>・0～2才児クラスでは、クラス内の月齢差が大きく、生活・遊びの両面において、発達に大きな差があり、クラスでの活動内容を考慮する上で難しさがあったが、「今何に興味があり、どういう面の成長を促していきたいのか」それぞれの発達に合わせて個別の指導計画を作成し、担当同士で密に連携をとりながらクラス活動を進めていくことで、1年を通して大きな成長が見られた。</p>	A
研修等資質向上の取り組み	<p>・各自参加した研修の全体への報告や、危機管理(園外散歩)マニュアルの見直しなど、定期的により良い教育・保育に向けて実施した。</p> <p>・教育保育実践勉強会では、園の根幹となる「保育課程」を改めて見直し、「縦割り保育」「担当制(未満児クラス)」「裸足保育」「わらべうた」など、時代に合わせつつ、大切にしたい活動内容の検討を行っている。</p>	B

<p>教育環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体での遊びの発展を中心に、教育・保育環境設定に努め、子どもの動向をよく観察し、何を準備したら遊びが発展するのかを考え実践を心がけたが、もっと細目に玩具や環境構成を見直す必要があった。 ・以上児クラスでは、「居場所マーク」を導入し、クラスの入口にボードを準備し、登園～降園まで、その都度移動する際には、「〇〇行きます」と自分で伝え、マークをその移動場所の欄に張り替えることで、子どもたち自身他児がどこにいるのか確認でき、違う場所へ行ってしまうリスクを防ぎ、職員も子どもの居場所が一目で把握できるようになった。 ・未満児クラスでは、月齢差が大きい子どもたちが互いに邪魔せず、じっくり遊べるよう、柵を入れ替えたり、環境作りを工夫して整えていったが、広いスペースの有効活用が難しかった。同じコーナーに集中してしまいやすい傾向があるため、できるだけ保育教諭は分かれて配置し、少人数で遊べるよう配慮した。 	<p>B</p>
<p>食育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況をみながら、年長児のクッキングを数回実施できたことは良かった。やはり、自分たちで作った食事は美味しいと感じるようで、年下のメンバーも喜んで味わっていた。 ・今年度も「ごはんのお話」で、栄養士が3歳以上の園児に向けて、「旬の食物クイズ」や「食べ物カルタ」など、手作りの教材で食に興味関心が高まるきっかけづくりを行った。 ・各クラス担任と、栄養士、調理師が参加する検討会で、成長に応じた食器の準備、手掴みからスプーン、箸への移行のタイミングなど、細やかに課題などを話し合い、家庭との協調が不可欠なため、保護者の方にもお伝えし、小食、偏食、アレルギー対応などの改善、徹底を図った。 	<p>B</p>
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期に一度ずつ、特別支援学校指導員による巡回相談を実施し、集団生活の中で子どもたちが感じる困り感をできるだけ軽減し、自己肯定感を持ち、達成感や充実感を感じながら、意欲的に生活、遊びに取り組むためには、どんな手立てや配慮があるかをアドバイスいただき、実践に努めた。 ・療育に通われている園児に関し、情報共有やそのお子さんに最適な関わりを学ぶため、療育施設へ見学に行ったり、施設職員を受け入れ園での様子を見ていただくなどしながら、お子さんにとってより良い環境作りを心がけた。 	<p>A</p>
<p>地域・小学校との交流活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平和学習の一環として、4月に城山小学校を訪問し、「かよこ桜」や被爆遺跡の見学を行った。 ・秋には西城山小学校1年生との交流会に参加し、1年生が準備してくれたお店屋さん、ゲームコーナーを年長児が自分たちで回り、楽しく交流させていただき、小学校への期待感が高まっていた。また、卒園児が楽しく仲間と協力して取り組む姿を見ることができ、その後の様子を知る良い機会となった。 ・3月には、年長児が西城山小学校を訪問をさせていただき、給食を食べる様子や、お昼休み、授業を受ける場面まで少し見せてもらったことで、就学への不安感を減らし、期待感を高められたように思う。 ・引き継ぎは、各小学校の現1年生の担任の先生や、教頭先生等に 	<p>A</p>

	丁寧に伝達を行うことが出来た。	
保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・内科健診、歯科検診は、前後期合わせて2回実施した。 ・学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。 ・3歳以上児クラスでは、食事時の感染対策として継続してパーティションの設置を行い拡大予防に努めた。 ・避難訓練を毎月行い、不審者対応訓練も実施し、通報し警察が到着するまでの時間を安全に守るための避難の仕方、子機を使った情報交換など、実際に不審者役の職員が不備箇所を見つけながら、意見を出し合い、改善を図っている。 ・交通安全教室を年2回実施し、安全意識を高めると共に、実際の園外活動で交通ルールの確認を行っている。 	A
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特に未満児クラスは、生活習慣の獲得において保護者との連携が重要であり、共通理解のもと家庭でも同じ関わりが出来るよう、情報共有をしっかりと行ったが、不足を感じる部分もあったため、次年度は個人面談を早めに実施したり、必要に応じて2～3回行うなどしていく。 ・保護者参加の行事には、多くの方々に参加がいただき、関心の高さが伺われた。今後も集団の中での成長や姿を見てもらう機会として、内容を精査し、感染状況に配慮しながら実施していく。 	B

評価結果の表示方法

A = 十分達成されている B = 達成されている C = 取り組まれているが、成果が十分でない
D = 取り組みが不十分である

4. 総合的な評価

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児を中心に意欲的に活動する姿が多く、「遊びの中からの学び」は、各年齢の段階において実践できている姿はありつつも、心情面で主体的に活動するより、受動的な方が安心する子も見られ、自尊心の高まりや失敗を恐れず(気にしない)、次への意欲に繋がる心の成長を促す必要性を感じる。 ・職員の働き方改革として、月に2～3回、1時間程度の作業時間を設けることで、少しではあるが、持ち帰り仕事の軽減を図ることが出来た。今後いろいろなアイデアを出しながら、働きやすい環境作りをを目指していく。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教育・保育活動について	・子どもたち自身が「意欲的に遊ぶ環境作り」を目指していく。
・職員の働き方改革	・充実した教育・保育活動を行うためにも、生き生きと職員が働けるシステム作りを図っていく。